

## 注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

### 【タイトル】

とある魔術の神話生物

### 【作者名】

棘豆腐

### 【あらすじ】

身内でTRPGやってるのでリプレイを投稿しようと思います。

自分はGMをやるのが初めてで、というかみんなTRPGは初心者なのでそこそこよろしくお願いします。

シナリオは一応原作『とある魔術の禁止目録』を題材にしたオリジナルのものなのですが、自分は“にわか”なので『とある』の要素は探索者が能力者である事ぐらいしかありません。というかPLの方が詳しいです。

そんなものでも良ければぜひ見ていって下さい。

ー世界観について

原作『とある魔術の禁止目録』の世界から50年後という体でやっています。

・50年後の世界についての詳細

学園都市の外から働き口を求める者、移住する者が年々増え、そして学生の数は減っていく傾向にある。人口の比率はすでに学園都市とは呼べないほどである。学園都市以外の人間が増えた為に能力者

自体も数が減っているが、代わりに成人している能力者もいる。(むしろその方が多い。)

なお、これによりこれまでの学園都市としての機能は、現在まるで異なったものとなっている。

例えば、アンチスキルとは別に警察組織があり能力者だけでなく、能力を持たざる者も取り締まっている。(機能としては、現実世界の警察と一緒にと思って下さい。)

警察組織内に能力者は少ない。

この説明をPLにしたのは後のほうなので、初め辺りのRPには反映されていません。

#### ――注意事項

1、クトゥルフ神話TRPGとしてはじめました。

2、戦闘メインシナリオとして作ったはずなのに戦闘が全くありません。

3、ハウスルール多めです。てか、たぶんほとんどです。(本家TRPGあまり知らない。)

4、本シナリオはクトゥルフ神話TRPGのルルブには基本的には準拠しておりません。

5、ルルブを持つてるのはGMだけです。

6、「」は発言、( ) は心内語という感じです。

7、本GMによる誘導は分かりづらいつらいつらと定評があります。

8、GMはその日の気分で鬼畜になったりします。

9、本シナリオは原作『とある魔術の禁止目録』を余り知らないGMによる、『とある魔(ry)』の50年後の世界です。世界観に錯誤が生じたとしても、「50年後だから……」などとGMが意味不明な供述する可能性があります。予め御了承下さい。

――最後に……

現在進行形でプレイしております。区切りのいいところまでいったらまとめて投稿する感じですよ。

シナリオ自体は面白いかわからないんですが読んでくださると光栄です。

## 探索者の詳細

### ――世界観について

原作『とある魔術の禁止目録』の世界から50年後という体でやっています。

### ・50年後の世界についての詳細

学園都市の外から働き口を求める者、移住する者が年々増え、そして学生の数は減っていく傾向にある。人口の比率はすでに学園都市とは呼べないほどである。学園都市以外の人間が増えた為に能力者自体も数が減っているが、代わりに成人している能力者もいる。(むしろその方が多い。)

なお、これによりこれまでの学園都市としての機能は、現在まるで異なったものとなっている。

例えば、アンチスキルとは別に警察組織があり能力者だけでなく、能力を持たざる者も取り締まっている。(機能としては、現実世界と一緒にだと思って下さい。)

警察組織内に能力者は少ない。

この説明をPLにしたのは後のほうなので、初め辺りのRPには反映されていません。

### ――注意事項

- 1、クトゥルフ神話TRPGとしてはじめました。
- 2、戦闘メインシナリオとして作ったはずなのに戦闘が全くありません。
- 3、ハウスルール多めです。てか、たぶんほとんどです。(本家TRPGあまり知らない…)
- 4、本シナリオはクトゥルフ神話TRPGのループには基本的には準拠しておりません。
- 5、ループを持つるのはGMだけです。
- 6、「」は発言、( ) は心内語という感じです。

7、本GMによる誘導は分かりづらいと定評があります。注意をはらって下さい。

8、GMはその日の気分で鬼畜になったりします。

9、本シナリオは原作『とある魔術の禁目録』を余り知らないGMによる、『とある魔術(ry)』の50年後の世界です。世界観に錯誤が生じたとしても、「50年後だから……」などとGMが意味不明な供述する可能性があります。予め御了承下さい。

#### ――探索者の詳細

(技能・近接戦の数値は足した後の数値です。)

(PL名≒坂田)

天廻 仁(てんね じん) 男性 年齢17 高校生

STR14 DEX11 INT13 アイデア65

CON13 APP8 POW14 幸運70

SIZ15 SAN70 EDU16 知識80 耐久力14

技能

回避 72 鍵開け 41 隠れる 40 聞き耳 55

信用 45 跳躍 45 投擲 65 目星 85

マーシャルアーツ(マジカル 八極拳) 71

近接戦

組付き 45 こぶし 70

――能力――

異常解析 オーバーアナライズ Level5

思考を加速できる。加速に上限はないが、神の英知に近づけば……

(察し)

思考の加速による、現実世界への影響はない。

通常スパコンが必要とされるような情報解析も、ものによるが頭の中での解析も可能である。

武術に対する知識を一瞬で会得することはできるが、体得すること

ができるわけではない。

普段はスキルアウトに少々絡まれることもあるが、比較的平穩な学生生活を送る学生

成績優秀、運動もできる。でも、他のLevel5と比べると見た目は少し残念。

-----

(PL名=miss)

軽戸 白石(かると しらいし) 男性 年齢13 中学生(学校には行っていない)

STR12 DEX13 INT14 アイデア70

CON11 APP11 POW11 幸運55

SIZ14 SAN55 EDU17 知識85 耐久力13

技能

回避 75 隠れる 40 聞き耳 75

コンピュータ 62 精神分析 41 投擲 90

図書館 65 目星90 マーシャルアーツ(合気道) 80

能力

対象移動 マテリアルポイント Level4

対象は特定の人物、特定の物体。それらの周囲に転移する。

転移距離には制限がある。対象が距離圏内に対象がない場合、転移はできない。

人物の名前や物の名称だけでは転移できない。

転移できるのは自身のみである。

軽量のものであれば一緒に転移できる。

置き去り出身

研究所を脱走して逃亡中のため学校には行っていない。

逃亡中にできた知り合いの家を転々としている。

-----

(PL名=ひより)

天野 陽歸（あまの ひより） 女性 年齢17 高校生（不登校）

STR10 DEX8 INT12 アイデア65

CON14 APP9 POW8 幸運40

SIZ9 SAN40 EDU17 知識55 耐久力12

技能

回避 71 鍵開け51 聞き耳 70 コンピュータ 21

信用 45 心理学 35 説得 55 ナビゲート 40

目星 70

能力

認識転換 センステンジ Level4

周囲からの認知度を低下させることができる。

能力発動中は石ころ同然として捉えられる。

効果範囲には制限がある。

人からの認知度を低下させるだけなので、レーダーなどの物にはバツチリ感知される。

学校ではクラスの雰囲気馴染めなかったため高2の二学期から不登校。

基本トロくてビビりで人見知り。不登校だが、本人は体が丈夫なのが悩み。

友好関係はほぼなく、これと言って友達もいない。

趣味は学校時間に外をぶらぶらひとり歩くこと。

-----

朝霧 雛華（あさぎり ひなか） 女性 年齢24 ???

STR18 DEX10 INT16 アイデア80

CON11 APP16 POW10 幸運50

SIZ12 SAN50 EDU16 知識80 耐久力12

技能

言いくるめ 25 運転（自動車） 41 回避 50

聞き耳	75	忍び歩き	70	信用	50	説得	50
マーシャルアーツ（軍隊格闘術）	90	拳銃	70				
近接戦							
キック	85	こぶし	80				
非能力者							

職業は軍事関係らしい。

学園都市とは別の場所から仕事でここに来ていているらしい。

仕事関係の関係で警察やその他と深く関係を持っているらしい。

このキャラは助っ人として、でているもので一応GMのメインキャラです。別のシナリオで使ってたのをそのまま流用したただけなのでステータス微妙に高いけど気にしないで下さい。あくまでも助っ人キャラですし。

このキャラのRPは実際はやってないんですが、ここではやりたいと思います。



## 1日目

近年、世界各地で謎の遺跡が発見されていた。それらは、海、山はたまた街中の公園でも発見された。そう、この学園都市でも。

遺跡が発見されてから、解析が進められた物の学園都市としても解明出来ない原子が3つも確認された。

IIICOCNEWSより

GM：まずはハンドアウト。

天廻 仁

最近、家の近くに出現したという遺跡に異常な程人気（ひとけ）が無いらしいことを聞いた。スキルアウトの溜まり場にもなっていないようなので、興味を持つた。

軽戸 白石

最近、気が付くと例の遺跡のそばにいる事が多くなった。夜うなされてる事が多くなった。

なんだか、知り合いにも避けられ始めた…。

天野 陽歸

外をほつつき歩いていると、ある時間になると急に家に帰りたくなる衝動にかられる。窓から外をみると、人っ子ひとりいない。とても不思議だ。

GM：では、始めて下さい。

坂田：解明出来ない原子のことは発表されてるの？

GM：情報は漏れました。学園都市の人は大方知ってます。情報がどこから漏れたかはわかりません。

天廻「学園都市の科学者でも解明出来ない原子ねえ…ハッ、」  
軽戸「その割にトウの現場に誰もオらん言つんも変なハナシやけん  
ど」

GM・遺跡に近付くと何かしら歌のような物が聞こえる。

軽戸「！… 覚えは有るけども相力変わらず変なウタみたいなんが  
…どこで聞いたかいなあ…」

ーアイデアロール 7(70) 成功

ー歌は毎晩うなされている夢で聞いているものだった

軽戸「ああ…！ あのコワく無いんやけんども気持ちワルい言つん  
もチガウ変な夢や…」

それでウナされるてもよーワからん」

GM・遺跡にはどうも近付き難い雰囲気があります

天野「まったく…散歩に行っても行ってもこの時間に帰りたいない  
なんて…」

気持ち悪いですし、第一つまらないデスヨあたしの趣味が…」

「またこの時間デスか？…ムム…人も全然通らないですし…暇暇暇暇  
暇暇」

軽戸「ん…カエろかいなあ…あ！ 泊まるサキ決めとらんかった  
なあ」

天野 幸運ロール 91(40) 失敗

ー特に何も無し

軽戸 幸運ロール 85(55) 失敗

ー特に何も無し

GM：人はドンドンいなくなっていきます

天野「いつこうに！人が！通らないじゃないデス力!!」

ここはあたしが外に……… っていうのはダメだよな〜汗

この時間は歩いちゃダメっていう法律出てたかもだし〜…」

ひよこ…これさ、天野さんが帰りたくなる時間って何時か教えてもらえたりできる？

GM：17：25〜ですな

天野「……寝れるわけあるかあ!!まだ七時過ぎデスヨ!?散歩も途中でやめえ！人間観察もなし！体力有り余ってるっつーんですよ!!」

「遺跡い!?とかなんとか言ってますたっけ!?お偉い方々様が!どおう考えてもあたしの趣味妨害してんのはそれじゃないっすか!」

「あたしの趣味、返せってんデス!一目見てきてやるっつじゃありませんデス力!!」

ひよこ…外出れる〜?

GM：扉の前で足が止まってしまいます

ひよこ…結局諦めて、明日の午前中に向かうことにする、でいい?

GM…どうぞ。

軽戸「天廻さんとかヒマや言つとった気するなあ…訊いてみよかあ…」

m@s@s：能力で天廻の所へ

軽戸「ほい…と、なんや意ガイとチカくに居ましたんか」

天廻「んお?白石じゃねーか。ハッハー、また俺の家を寢床にしよ

うってか？」

―目星無条件成功（発動）

―軽戸からは、何かしら霽がかかっているようなそんな気がします。

軽戸「そんな所です。ザツ用グライなら聞きますさかい」

天廻「…白石、ここ最近でなんか変なこと無かったか？」

軽戸「無理や…言っんならホカあ… 変な事ですか？」

天廻「ああ、そうだ。」

軽戸「特に変言っ事はナいですね…遺跡なんかは気になって行ったりしますけど」

天廻「遺跡に行ったのか…そこで何かあったのか？」

軽戸「たまに気づいたら居る言っ事もありますけど」

「ああ…そついえば夢で聞いたんと似たような似たようなウタ聞こえてきましたけど？」

天廻「歌…ねえ、そいつに聞き覚えは？つてか気づいたら遺跡つてアブねえだろーがよ…」

軽戸「気つけるようにはします。さっきも言っただ通りウタは夢で聞いた気するんです

そや、夢やったら天廻さんの言っ変な事にアてハマるやるか」

「サイ近、「ワいんともチガう変な夢を見るんですわ…」

天廻「あー、その夢を見るようになる前なんか無かったか？」

GM：遺跡の入口に少し入りました。その後気絶しました。

軽戸「最初にあの夢見たんが○／×やから… その日は遺跡のナカちよっただけ覗いて見たグライですよ？」

「クラくてあんまよう見えませんでしたし、気づいたら外居りましたけど…」

GM：現在19：07

日が暮れて夜が近付くと天廻は本当に外に居てはいけなと感じ始めました。

軽戸は何も感じません

天廻（最初に夢を見たのが遺跡に行った日なんて偶然とは思えねえ。何か関係性があるだろオ。しかもこの見えねえ霧ときた、おそらくこの霧が原因だと思っただが…）

軽戸「まあ無理や言っただしたらホカアたりますし、みなさん無理言っただらそのアキビルで寝かせてモラいます」

天廻（この霧は俺の能力を阻害してくるときた。よーするに現状じゃ打開策はない…か。ってもこの霧はイヤな予感がするしなあ…）

GM：（正確にいうと、霧が原因ではないんだよなあ…）

軽戸（バン秋やしちょっとサムそやなどっかで毛布盗ってこよ）

天廻「おう、今日は少し用事があるからな。悪いが他をあたってくれや。」

軽戸「お！メズラしいですね天廻さんに用事がアるナンて。ほな、ホカアたらせてモラいます」

坂田：別れたあと二堂に電話

GM：繋がって直ぐに電話が切れました

天廻「チッ、忘れてた…あいつ馬鹿だからすぐに磁場を…ハア、あいつにすつか」

坂田：箒に電話

箒「もしもしい〜」

天廻「ああ篝、お前今暇か？」

篝「チツ 男かよ…」

「暇じゃねーよー」

天廻「ハッ、なんだ？また女ひっかけてんのかよ。」

篝「カンケーねえだろお前にはよお」

「で？なんだよ 手短にしるよ」

天廻「ああ、今 あたりの遺跡周辺にいるんだがよお。ちょっとそこまで来いよ」

篝「はあ？ おまつどんだけ遠いんだよお 無理だ無理！」

天廻「あーそうかーイヤー仕方ないなー来てくれたら学校の女の子紹介してやるーと思ったのになー（棒）」

篝「はあ……」。呆れた感じで電話を切る

天廻「チツ、あいつ切りやがった…あークソ、他に生贄にするやついねーし仕方ねえ。とりあえず遺跡前あたりに行ってみるか」

GM：17:25 人はみな帰りたくなっていく現象の状況下です。

これは夜明けまで続きます。

坂田：自分の意思でも動けないと？

GM：この時刻以降は原則外には出れません

能力の発動はある程度の集中が必要。外だと帰りたい欲に支配されて集中出来ない 行使不可能

帰宅後能力行使

ー自分が外に出れない事はあの遺跡が原因であると確定づけま  
す。

軽戸も、この現象の一部であると推測します。

天廻（この現象…ここら一带、いや学園都市にまで広がっている  
とみた。しかしこの範囲に加えてLevel5の俺ですら術中に嵌  
るとは…50年前にいたメンタルアウトにもできねえぞ！クソッ、  
いったいどうなってやがる!?!）

## 2日目

m@ss: 投擲用に投げナイフ何本か持ってる事にして良い？

GM: どぞー

m@ss: どもー

### ー最新序列ー

1 朝霧 雛華 人外確定

2 ??? 常識崩し

3 八雲 葵 次元超越

4 削板 昊音 不明

5 篝 隼 熱処理機

6 天廻 仁 異常解析

7 二豈堂 正 機械忍者

坂田: 3位どこのスキマバー このログはスキマ送りにされまし  
た

坂田: 朝霧は学園都市じゃ原石扱いか？

坂田: とあるの世界観だけで考えれば聖人というのも考えられるん  
だかな

m@ss: 5・6しか良心は居ないらしい

ひよこ: これ、とある知ってた方が やりやすい？

GM: どつちでもない。少なくとも、シナリオ書いてるやつがにわ  
かだから

ひよこ: なんとというびみょい返答...

ひよこ: まあ...読んでみます!! にわかレベルぐらいにはなります  
!

m@ss: 俺もにわかだしなあ...

ひよこ: にわかレベルにすら達してないから

昨夜未明に学園都市内に新たな遺跡が出没した模様です。今回の遺跡には、解析を始める前に少しいざござがあった模様です。出現した遺跡の周りでスキルアウト達が集まり集会のようなものを開いていたとのことです。また、この情報はまだ正確なものとは断定出来てはおりません。引き続き皆様からの情報支援をお待ちしております。

――COCONEWSより

m@s@s・適当な路地裏でスキルアウトから朝飯代を盗ろうとした結果

軽戸「居らんやん」

ひよこ：今、何時？

GM：すきな時間をどうぞ

ひよこ：はい

GM：あ、一応言っただけ

ひよこ：8：30頃……大丈夫？

GM：おk

ひよこ：ありがとう

ひよこ：学校に登校する生徒を全て窓から見送り

天野「よしっ！ 今日こそ18:00に帰ってきてやるんデス!!」  
散歩に出かける

GM：みんな8：30以降の行動でおk？

GM：続きどうぞどうぞ

坂田：そっぴや俺学校行かなくていいの？ 最悪サボるが

ひよこ：サボんの？

坂田：まあ行動制限されるしサボるか

GM：そこは別にええんちやう？



坂田：そこらへんをぶらつく。主に裏通りあたりを

GM：はい

坂田：目星とかでなんかない？

GM：おk

目星 62(85)成功

「裏通りで見かける奴らのいつもの活気がない。みなテンションが低い

天廻（なんだ・・・？あいつら妙にテンション低いな。よし少し聞いてみるか）

坂田：そいつらつてスキルアウト？

GM：レベル1とか2とかもいるよ

天廻「よお、お前ら。テンション低いな。いつもの俺に向かってくる気迫はどいしたよ？いや、向かってこないことには手間が省けて此方も助かるがな。」

輩B「んああ？なんだあんちゃん？」

坂田：Bから始まった

輩A「こちとら何が起きてっかわかんねえんだわ あっち行ってくれ」

ひよこ・・・Aを持ってきた...

天廻「こちとら最近の異変を調べるためにわざわざ学校まで休んだよ。お前らも早くこの状況から脱したいならいつもの礼代わりにさっさとスキルアウトの状況話しやがれ。なんかニューースになつてたぞ？」

輩A「それが、いなくなっただよ」

輩C「この学園都市からなあ！」

天廻「お前ら、文脈がなってないぞ？ いったい何がこの学園都市からいなくなっただよ？」

輩B「スキルアウトがあだよお！」

天廻「ああん？ スキルアウトがだと？ それは組織がってことか？ それとも人員がいなくなったのか？」

輩「ここに居るやつが少なくとも、いなくなっただよお！」

天廻「なるほど・・・お前らのリーダーも消えたのか？」

輩「わからん」

天廻「少なくとも連絡は取れないってことか・・・よし。一応礼は言っておこう。なんか進展があったら教えてやるよ。お前らも何か状況に変化あったら俺が通りかかったときに伝えるよ？」

輩「・・・ああ……………」

軽戸（ふむう　　ナンとなーく状況はワかったけども…　ひとまずは…）

m@s s s : 天廻居なくなった？

坂田 : 文字打つの疲れたから次m@s s s 叩

G M : そうですね

坂田 : 天廻は再びぶらつく

m@s s s : 能力で奇襲かけて金盗る

坂田 : なんかニカイドウにエンカウトしそつだなw

ひよこ : やることヒドイ…

G M : 誰に？

m@s s s : 今天廻が話してた奴ら

G M : 成功しましたが、特に反応がありません

坂田 : スキルアウト君なんかゴメン

ひよこ : これって遺跡近づける？

G M : どうぞ

坂田 : 白石が居たってことは話聞いてた？

m@s s : 金盗れたなら朝飯食いながらニュース見れそうな所で  
ニュース見る

m@s s : 話聞いてた事にする

GM : 聞かれてたおk

m@s s : 後はひよこよろしく

ひよこ : あらら、バカ天野に任せるのね…

GM : ニュースには特別なにもありませんでした

坂田 : 俺白石に気づいて無かった？

GM : ないです

天野「ハッ…あたし…今日はなにかを しようと思った気がします

…」考える

天野「はて…？なんでしたっけ…？」

天野「あ？…ああ!! 遺跡!! 遺跡でしたね！ それでは近辺だった  
はずなので 行ってみましょうか」

ひよこ : 遺跡へ向かう

GM : 遺跡に着くと、そこには人が1人立っていた

m@s s : 朝霧だな(確信)

ひよこ : 女？男？(女だろ…?)

GM : 女

ひよこ : 美人？

GM : 女でも惚れるぐらい美人

ひよこ : うっわ…了解

天野(はうえ!? ひ…人がいるなんて 聞いてませんよ…!? 引き返す  
!? 帰る!? 帰っちゃおう!? ……いや、でも…ここまで来て 帰るわ  
けには…)

朝霧「あなたここでなにしているの」

天野「はうえ!」

朝霧「見たところスキルアウトではなさそうだけど、学校は？」

天野「た…体調不良のため休んでる…デス」  
朝霧（まあ…嘘でしょうねw）

坂田：体調不良出かけてるぞおい

天野（め…目が怖いよ〜！（泣））

朝霧「体調不良なのに外に出てるの？」

ひよこ：坂田さん余計なこと言うなよ！

天野「そ…外の空気を少し吸おうかと… 部屋にこもりっぱなしじゃダメかと 私の本能が訴えてましデスネ…」

朝霧「とりあえず、ここは危険だからあなたは近づかないことね」

天野「……やっぱりここ、危ないですか…？」

朝霧「あなたはレベル4かしら？まあ…レベル5の強者達でもここは危険ね。」

天野「そうデスカ… ……あ、1つ体調不良の私は不思議に 思ったのですが……」

朝霧「なあに？」

天野「お姉さん…様？（笑）はどうしてそんな危険なところにいらっしやるんデシヨウカ？」

朝霧「私は良いのよ。ここには仕事で来てるの。もっとも、危険な理由は私には関係の無いことだから…」

軽戸「…んあ!? また来てもうた…ナンナンやるか、よーワからんな…」

天野「はうわあえ!!??」

朝霧「あらあら。あなたは…」

天野（人!?ガキ!?こども!?おない!?)

軽戸（あれは…1位やったか2位やったかのアサ霧…とダレやあれ?)

天野「お姉様!!なんかガキ一人来ましたよ!!」

朝霧「あなたはここに来てしまう運命を持つものかしら(笑) お嬢さんお暇しましょうか。」

天野「ほう？」

軽戸(姉マイ? 全然似とらんけど…)

天野「そのガキんちよ… 今、失礼なこと思いマシタネ？」

GM:足早に立ち去る

GM:天野を引きずりながら

天野「あ…！お姉様!?お姉様!! あのガキをしめさせてええええ!!」

軽戸「ああ、おカマイなく… ちょい通りがかっただけですし… って、行ってもた…」

朝霧「あの人も危ないわかわらない方があなたの為よ」

天野「…?あのガキ… 人がデスカ…? それは変質者的な意味で？」

朝霧「うーん… それもあるけど、とにかくダメよ。ね？」

坂田:ひでえw

ひよこ:あるんだ…ww

m@s@s:ねえよ!!

GM:女の子を近づけて良いはずが…:ない

天野「よ…よく分かりませんが… 了解しましたデス。でも、お姉様とはまた会える気がしますデスヨ」

朝霧「そうね(笑)」

朝霧(生きていれば…だけどw)ボンッ

天野「あ、最後に…すみません 今、何時でしょうか?時計持ってなくて」

軽戸(アサ霧のイメージはダイタイトラえたからまあ良しとしよ…)

朝霧「10・07よ」

天野「はうぁ…まだまだ時間がありますね… ありがとうゴザイマシタ」

朝霧「気をつけてね。」「ニッコリ」

ひよこ：朝霧に近距離で精一杯手を降ってから またぶらつく

m@s@s：隠れるで二人が離れるとこまでつけてた事にできる？

GM：出来ませんが、朝霧だけは終始気づいています

m@s@s：それは承知済み

ひよこ：天野のバカと違って動くね

坂田：ロール成功しても気づくとかマジばねえな

GM：ロールは別にせんでいいよ

m@s@s：霊長類最強女子？だからな

GM：天野は朝霧に気を取られてるから、失敗していても気づかな

い

ひよこ：バカだ…

GM：APP16のせいだからw

坂田：俺はそろそろ誰かに会ったりしない？

GM：そうだねえ…

ひよこ：天野と会った？ 疲れるよ…

GM：そこは自由にどうぞ

坂田：それなら朝霧と一緒に顔合わせていた方がいい

坂田：接点なさ過ぎて素通りするわw

GM：おk

朝霧「そろそろ出て来たら（笑）」

坂田：俺？

GM：軽戸

坂田：だよね

軽戸「途中目アいましたね。どづいつつもりでしたん？」

朝霧「あなた程度なら片手で相手出来るもの、仕掛けなかっただけ感謝しなさい」「ニッコリ」

軽戸「一応敵意は無いんで仕力けられる謂われは無いつもりですけど…」

朝霧「あら？あなたはそう思ってるの？」

坂田「ココなら俺入れそうだな？」

G M：軽戸と面識あるからいいよ

坂田「入っていい？」

G M：どぞどぞ

天廻「あん？白石じゃねーか。隣の女は誰…」「只ならぬ気配を感じたので能力行使できる？」

G M：APPに阻まれて別のことを考えてしまった

m@s@s：ひでえwww

坂田：気配そっちのけ…だと

ひよこ：さすがAPP16

坂田：APP万能すぎるw

G M：美しさは罪ってやつだよ

坂田：ンで別のことは？

G M：それはお察し

ひよこ：天野はあれとして天廻もか…（苦笑）

ひよこ：お察し？

G M：お察し

天廻（簞が見たらほっておかなそうだなあ…）

m@s@s：軽戸は中学生だしそこまでは…

坂田：こんな感じで

ひよこ：あ、ナルホド

ひよこ：坂田さん、説明ありがとう

坂田：いや、ただのRPだ

GM：軽戸は別にいいよ

ひよこ：訳が分からなかったからRPいれて くれて助かったの

坂田：俺黙っちゃったから次どうぞ

朝霧「あら？お友達？彼はナンバーシックスかしら？」

軽戸「あ、天廻さん ヤ雲さんから聞いた事ありません？ 1位の朝霧さんです」

坂田：俺って顔公表されてんの 朝霧も

GM： 八雲は常仮面つけてる人です

GM：公表されてませんよ

坂田：白石知ってたのか？

GM：知りません

m@s@s：あれ？

GM：八雲からは、ものすごい美人という事しか聞いてません

坂田：それで分かったのかな？

ひよこ：美人で分かるて（苦笑）

m@s@s：さっき顔見て朝霧だと決めつけた事になるのか…

GM：あと、お前如きが姉様に近付くなと脅されています

坂田：じゃあ自己紹介してない朝霧から突っ込みはあるな

ひよこ：みんながあがめるお姉様なのね…

m@s@s：声には出してないし…

m@s@s：あ、出してた

坂田：俺が話そうか？

朝霧「あら？なぜ私の名前知ってるのかしら？」

軽戸「強そうや」とか、美人さんや言うウワサ聞いてますし」

軽戸「十中八ツ九そうやー思ただけです」



朝霧「八雲さんかしら？あの人口が軽いのよねえ…困るわ」「ニヤニヤ

天廻「ふくん？あんたが最近1位になったっていう人外確定ねえ…？」

天廻「というか、俺も顔は公表されていない筈なんだがな？」

朝霧「そっ呼ぶのはやめてもらえないかしら？」「ニコニコ」(目が笑ってない)

GM：顔で判断でなく雰囲気で強さを見てます

朝霧「顔ぐらいで回ってるわよ。私達の業界じゃあね」

天廻「ハッ、じゃあなんだ？自分は暗部の人間ですってか？」

坂田「コレどうするよ？」

朝霧「私は学園都市の人間では無いのよ。学園都市の遺跡を調査しに来たのよ」

天廻「遺跡を調査しに…？じゃああの中の事も少しはわかってんのか？」

軽戸「1位なんを否定せん言うんも変ですけど…」

朝霧「あなたには教えられないわ。知りたければあなたも入ってみればいいわ直ぐにあなたなら判るんでしょ？」

朝霧「異常解析という名は偽りですかあ(煽り)」

天廻「チッ、胡散臭い奴だ。まるで八雲相手にしてる気分だぜ。…一つ聞かせる。白石にまとわりつ鬮はなんだ？あれは明らかに科学じゃ証明できねえ」

朝霧「1位つてのは勝手に言われてるだけだし、わざわざ違うと言いたい張る必要も無いのよ。事実あなた達には負けないわ。」

軽戸「？天廻さん変な事言いますね？」

朝霧「それも遺跡にはいれば判るわ。オススメは昨晚でた新しい遺跡の方ね。」

坂田：ここで能力行使は？

GM：能力は何に？

「ここでm@s@sが風呂へ

坂田：朝霧の能力について調べるよと思った天廻

GM：ok能力ね？

坂田：流石にこの場面ではAPPに阻まれないだろ

坂田：もしくは体の構造

GM：朝霧を注意深く観察して見たが、何か能力を使って自分を調べているわけではないようだ。その体自体が彼女の武器なのだろうか…。

坂田：体の構造に一般人との違いは？

GM：服の上からではわかりません

坂田：手とか首は？

GM：さしてちがいは見受けられません

坂田：ok

坂田：ンで能力で見た事はバレンの。俺の能力発動する予兆とかないけど

GM：見ていたのはばれます

ひよこ：朝霧さん、スゴいなあ

坂田：能力行使はばれてない？

朝霧「なあに？そんなに見てもしかして惚れちゃった？（笑）」

ひよこ：朝霧さんにんなこと言われたら だいたいの男は惚れるよなあ…

天廻「なに、知り合いに紹介したら喜びそうな美人様だと思っただけさ。」

ひよこ：強いな、坂田さん…

坂田：Level 15の精神力は伊達じゃない

ひよこ：拍手送るよ

朝霧「あら？嬉しいわ（笑） でも、篝くんはダメよ。彼はもう痛い目に遭ってるから（笑）」

天廻「…あいつも手が早いな。にしても俺の人間関係まで把握済みとは、随分と広い情報網だな」

坂田：白石が蚊帳の外

ひよこ 意識は風呂に沈んでるから 言ってやるな

軽戸（そう言えば…カガリさんアザ作ってカエって来た事アった気するな…）

ひよこ：風呂から浮いてきた…

坂田：何度も行ってるのかw

朝霧「あら？もうお昼じゃない！八雲ちゃんとランチに行く約束だったっけなーい」(・\*ヾ)(テヘッ

ひよこ：誰だ、…お茶目なお姉様は… 天使じゃないか…

朝霧「八雲ちゃん来ちゃうよなあ…」キョロ^（。。）（。。）  
^キョロ

坂田：朝霧どっかいくの？

GM： 八雲は原作で言う黒子みたいなもんだと思ってね

GM：どっかいくねえ

軽戸「天廻さん、今日泊めてもらえますやるか？ 無理ならアテはヤ雲さんに聞いてみよ思ってますけど…」

m@s s : 一人称 : アテ

八雲「あ！お姉様！」

朝霧「あ、やくもt y . . .」

坂田：あ、八雲来た

G M : 朝霧と八雲は消えます

軽戸「…嘘っぱちや思ってたんだけど…」

天廻「…なるほど、俺たちの情報垂れ流ししてたのはあの女か…  
ハア、余計なことしやがって」

G M : 八雲ちゃんがひどい言われようにw

天廻「おい白石、今日は八雲とこいって色々問い詰めてこい。あの調子じゃあまり情報はもらえ無さそうだがな…」

天廻「まあその代わり昼飯くらいは奢ってやるよ」

軽戸「呼ばれたら何処へでも跳んでく言つてたん冗ダンや思ってたんだけど…んじゃ、行って来ます」

G M : 飛べませんでした。距離が遠いようです

軽戸「むむう……ヤ雲さんの家そないに遠くないハズやけど…？」

軽戸「どこ行きはったんか見当も付きません…」

天廻「あいつだったら一瞬で遠くまでいけるからな…少し時間を  
おいたらどうだ？」

軽戸「そうさせてモラいます…」

天廻「それじゃあファミレスでも行くか。さっき言ったように奢ってやるよ」

軽戸「お言バにアマえさせてモラいます」

日をまたぎます

GM：12；10 inファミレス

天廻「やっぱ時間が時間だし混んでるな」

軽戸「アいてそうな席ありますやるか」

天廻「まあ入ってみるか」

GM：ちょうど、二席空いているようです

軽戸「あのあたりならどうにか言うカンジですね」

天廻「そうだな、あそこに座るか」

ウェイター「ご注文はお決まりですかあ？」

軽戸「そんじゃアテはこれで」

ひよこ：これ、天野、来ても座れないよな…？

GM：天野は他でよろぴこ

ひよこ：りょーかいー

天廻「俺はこの苦瓜と蝸牛の地獄ラザニアとやらを頼む」

ひよこ：趣味悪い

坂田：1巻で上条さんが頼んでたやつ

ひよこ：趣味悪い

坂田：ファミレスといった時からコレを頼むの決めてましたW

ひよこ：なんだかなあ…笑 賢いのかなあ…笑

ウェイター「はあゝい、かしこまりましたあゝ」

m@s@s：50年近く経っても残ってる店もメニューもすげえWW

W

坂田：人気なんだよ、たぶん

ひよこ：愛されメニューだねw

ひよこ：(他に誰が食べるんだよ…)

「厨房ではー

「おいっこれなんだ？」

「知らねーよ」

「適当に作るか？」

「そうだな」

ひよこ：マジかよ(爆笑)

ひよこ：ウェイター、かしこまりましたって 言っちゃったよ!!

ウェイター「お待たせしましたあくゲテモノとゲテモノですう」

ひよこ：ウェイター!!……ウェイター!!!!

坂田：おい メニューにあった奴だよな

m@s@s：俺は変なの頼んで無いし…

ひよこ：頑張れ、天廻…… 心から応援してる…

ひよこ：安全地帯ね

ウェイター「苦瓜と蝸牛の地獄ラザニアも知らないとかマジ小学生  
までですよ。(笑)作り直しますね。」「ニクニク

ひよこ：うん…うん！ でも実際きたのはゲテモノとゲテモノ…  
って作りなおすんかった！

坂田：この笑顔はなんだ…

m@s@s：俺にはまともなの来た…よな…?

ひよこ：ていつか、おにいさん食へのこだわり 強いな!?

坂田：そのまま食えと言われたらまず能力発動して食えるかどうか

確認するところだったぜ・・・

ひよこ：いや、軽戸、素で変なの頼んでるかも

ひよこ：いったいどこまでが許容範囲　なのだろうか…

GM：(厨房は凄惨な状態になっているんだけどw)ボソッ

ひよこ：頑張れ、厨房

m@s@s：天廻の財布を考慮して比較的安めのを選んでるつもり

坂田：アレ。注、ゲテモノでないとは言っていない

ひよこ：え？ライスとか？

GM：アルバイト　オーナー　越えられない壁　ウェイター

坂田：白石が頼んだやつ

m@s@s：安いのか…？

ひよこ：というか…なんだ…　おにさんの笑顔がくつきり　思い

浮かぶよ…”

坂田：Level5の財布を舐めるな！

ひよこ：軽戸の気遣いは消えたようですね…

ウェイター「お待たせしました」アルバイトが適当だったのでお代  
は入りません。ごゆっくりして行ってください。「ニコニコ」(営業スマ  
イル)

軽戸「おおきにー」

天廻「お、ありがとさん。」

ひよこ：いったい何を持ってきたんだ!?　まともなのか!?

GM：正規品に決まってるんだろウェイター舐めんなよ

ひよこ：ウェイターって…すごいね…(感動)

GM：この世界は女性の方が強い(確信)

坂田：ただしひよこを除く

ひよこ：……………え?

GM：そらなw

ひよこ：え?

天廻「にしてもタダとはラッキーだな」

軽戸「ご馳走さんです。それじゃ、ヤ雲さんたちサガしに行つて来ますー」

GM：その時。突然、外が暗くなり客や外にいる人がいなくなつた。(天廻のみの状況です。軽戸とは気づいていません。)

GM：伝わりづらいなこれw

天廻「ッ」

坂田：白石は俺のこと見えてんの？

GM：見えてるし、他の客も外にいる人も普通に見える

坂田：天廻にこの現象に覚えは？

GM：ない

坂田：能力行使は？

GM：出来ません。

m@s s：軽戸とか客からは天廻が突然パニックに陥つたように見えるつてことで良いんだよな？

GM：そうだねえ

天廻 幸運ロール 99(70) 失敗

坂田：フア

ひよこ：(苦笑)

GM：ファンブルつて1000だけ？

m@s s：知らんがな

坂田：卓によって違うんじゃない？

GM：いくつにする？ 99、1000のふたつか、1000だけか

坂田：この状況で俺に問うか？

GM：え？うん(笑)



坂田：100だけを希望せざるを得ない

GM：じゃあ、99も入れよう

坂田：貴様・・・聞いとして自分の裁量で決めるか・・・

ひよこ：鬼ネ・・・

GM：え？だって面白くないじゃない(笑)

m@s s:クリティカル1}5 ファンブル95}100 で良  
いんでない

GM：1d100の場合だね。採用！

坂田：天廻はこの状況をどう思ってるの？敵襲だと警戒してるとか？

GM：何も思っていないですよ

坂田：この状況で何も考えて無いのかよ・・・

1ファンブルロール 1d4+2

1ー結果：3

GM：3とか運の良い奴め

坂田：不幸中の幸いつてか？

GM：幸運70 67

坂田：軽戸との同行のせいか？

GM：のーこめんつ

GM：幸運の低下に関しては、天廻に実感はありません。もちろん  
だけど

坂田：で俺はどういう状況？

GM：(。。。) ーね

m@s s:軽戸の声は聞こえるん？

GM：数秒ののち外が明るくなり、人も元通り見えるようになりま  
した。

坂田：白石は俺に呼びかけてる状況かな？

軽戸「...? どうかしましたん？」

GM：この間現実世界では、2}3秒ぐらい体感はもっと長いけど

天廻「…イヤ、ただの立ち眩みだ。気にするな。」

(今のはなんだ…人が急に居なくなっただけに見えたけど…? チツ、最近は変な事が多くて困る…)

軽戸「…でしたら良いですけど… そんなじゃ、アラタめてサガしに行つて来ますー」

天廻「ああ、頼んだぞ」

坂田「ンで俺は新しい遺跡に行こうかな」

GM「おk」

ひよこ「よし… 天野はたぶん例の帰りたくなる時間まで 暇だぞ」

坂田「ちよつと休憩するからm@s s s R P 頼んだ」

m@s s s「天野頼んだ」

ひよこ「は!? この状況で、天野になにしる つーんだよ」

坂田「朝霧と一緒に遺跡へGO」

ひよこ「朝霧さん、どっかいったんじゃ なかった？」

坂田「どうせ遺跡に行つたらまた会つたろ 天野のサポートキャラだし」

ひよこ「…どーですか… GMそれ… あり？」

GM「いいよお」

m@s s s「てか天野この辺りでR P しとかないと忘れ去られ…」

ひよこ「…いいんだ…」

坂田「今いつたら八雲も居そうなところだがな」

ひよこ「…それ、軽戸も出てこなきゃダメな 感じになるよ」

坂田「何処の遺跡行くかによつては俺にも会つな」

ひよこ「…え!? マジで!? 頑張る!!」

m@s s s「やつと1場面に全員が揃つ…」

天野「いやあ…あらかたコンビニの 食べ物はこの数カ月で食べつくし マシタネ」

天野「今は」……まだ18:00にはほど遠い……あと数時間……なにしましょ……」

坂田：役2名の過剰戦力があるがなw

坂田：天野と俺たち接点ないから朝霧いないと話できない

GM（軽戸はねえ……揃つかねえw）

天野「というか……先程のお姉様が忘れられ ません……このお弁当からですら……お姉様の ことを想像できてしまう……」

m@s@s：朝霧さんサポートキャラだよねえ!?

坂田：New黒子（変態）になりそうな予感……

ひよこ：やめろよw

天野「……仕事……仕事っていつて マシタヨネ…… もう一度行けば……アエル……？」

天野「ああ……しかし……先に近づくな と言われましたデスシ……」

ここは……あきらめ……ん？」

天野「あの場所が……ダメなんですよね……お姉様……なら……」

天野「別の場所なら……言いつけは 守ってマスよね……？」ニヤア

ひよこ……というわけで、新しい遺跡に 向かいます

GM：はい

坂田：別に言いつけ守る必要ないと思う俺であった

GM：その方が展開進むと思うGMであった

ひよこ：崇拜に近い気がするから…… 朝霧の言うことは天野は絶対かな……と”

GM：設定としてそれも大事だけどね

m@s@s：そのくせ中途半端に守らないと来た

ひよこ……まあ……そのうちどーにかするんじゃないですか？天野、バカだし

坂田：崇拜するなら命令の穴みつけよつとするとするなと思う俺であった

GM：はいはい続けてー

ひよこ：このままぶっ飛んで、遺跡ついても　おk？

GM：いいよお時間は経つけど

ひよこ：へいへーい

GM：15；45

天野「……足が…イタイ…デス　そして……ここが新しいお姉様の  
出没するであろう場所Bデスネ　？」

ひよこ：あ、なんか文おかしい…　察して

一同：へ、変態だー！

ひよこ：やめるよ!!　私だって好きでこんなキャラやってんじや  
ないんだよ!

坂田：なら自分の好きなキャラ演じようぜ　…

GM：そのとおりである。

坂田：で、朝霧いた？

ひよこ：いや、天野の性格重視だし。　天野とひよこは別人だしね  
…

(勝手に天野のキャラが頭で　できあがってしまった)

GM「遺跡位置をここで確認」

ひよこ：遠い!!

ひよこ：よく歩いたな!!不登校なのに!!

GM：遺跡には八雲と朝霧がいた

GM：天野は八雲はわからんね

ひよこ：八雲って女だっけ？男だっけ？　顔面偏差値高いっけ？

坂田：天野の人を見る基準はそこののか…

ひよこ：そこだね…たぶん…　人間として底辺だよ…

m@s@s：女で仮面被ってるんじゃ…？

GM：女で仮面してるけど顔面偏差値は高いよ

坂田：あ、コレ八雲といい関係にならないな

天野（お…お姉様!!!!）

天野（と……仮面人間1号……？ 誰です…あれ）

ひよこ・私は仲良くしたいけどなあ…（苦笑） 天野は無理だろうな  
（泣）

GM：まだ朝霧は気づいてません

朝霧「あら？八雲ちゃんどうしたのソワソワして」

天野（どうやって近づくべきか… ナチュラル…ナチュラル…ナチュラルに…）

八雲（ライバルにもならなさそうなやつが来そうだなあそんな感じがする…）

ひよこ 怖い!!怖いよ!! 中の人は八雲と仲良くしたいよ!!

天野（仮面人間1号…なんだか… ただならぬ気配が滲み出てるよ  
うな…）

八雲「え？なんでもないですよ！お姉様！」

天野（ええい!!!ここは行くしか ありませんデス!! お姉様目指して、陽歸、イツチャイマス!!）

天野少し離れた所から「え……あ……あの…さっきのお姉様…？」

朝霧「あら？やつぱりきちやった（笑）」

天野「はう!!覚えててくださったのデスネ!？」

八雲「お姉様!誰ですか?この顔面偏差値並の女は!」

m@s@s：風呂入ってくる〜

GM：風呂おk

m@s：風呂に消える

天野「あ…お姉様のお友達デスカ? コンニチハ」

ひよこ：敵意を隠さず、顔ひきつりながら 笑う

朝霧「そんな事言わないの！」八雲の頭を軽くポカッ

八雲「ふええひどいですう……。……。」。。

天野「いえいえ！大丈夫デスヨ!! 顔面偏差値は並みデスシ それに……」

朝霧「それに？」

GM：八雲は見た感じ大学生くらいです

天野「お友達サマの仮面もなかなか 良い趣味してらっしやいます」

天野（仮面つけて街中歩くとかどんな 大人ナンデスカデスヨ（喧嘩腰））

八雲「あなたなんかはこの仮面のよさがわかるのかしら？」

天野「並みの思考回路の人には 分からないと思いますヨ？」

天野「そんなことよりお姉様!! ここにきて、まさかまたお姉様に会えるとは露ほどにしか…… いえ、露ほども思ってたマセンデシタ!!」

八雲「ホントかしら？」

天野「仮面人間1号さんは黙ってて クダサイ」

ひよこ：ダメだ…… 私の頭が錯乱してて天野じゃ なくなってる……

GM：女と女（中の人は男）のバトルw

ひよこ：大変だね……

坂田：そろそろ俺入るか？

ひよこ：この修羅場に？ 頑張れ……

坂田：それともまだ時間かかるかな？

八雲「私にもちゃんと名前があつてよ その辺の能力者とは格が違

うんだから！」

朝霧「ほらほら、喧嘩しないの」(ッ) (〇)メツ!!

天野「あ、お姉様？まだ名前言ってますんデシタよね？あたし、天野陽歸って言います お好きなように呼んでくださいね」

天野「天野陽歸デス。名乗らないなら 仮面人間1号さんと呼びますヨ」

朝霧「天野さんね。こっちは八雲ちゃん。これでも一応ナンバーズリーなのよ。困るわよねえ…」

天野「天野……さん(地味にへこみます(泣))」 ボソツ

天野「仮面n……… 八雲さん…デスカ…」

ひよこ…もつどうもっていったらいいか 分からない…。 天廻、こないの…

坂田…この会話終わったら入るよ

朝霧「仲良くしてね 特に八雲ちゃん」

八雲「うえええ」

天野「お姉様の言うことも聞けないんデスカ？ あたしはヨロシクしますよ？ 仮面の八雲さん(喧嘩腰)」

八雲「むう…ヨロシクデス」

坂田…俺ん家は？

GM「天廻の家の位置を確認」

坂田…なるほど

m@ss…今俺が入って行ったら朝霧に逃げられそうな気がするから…我慢我慢

ひよこ…天野と家ちっかいな

ひよこ…これ、天廻と天野って高校 違うの？

GM…学校は同じだよ…ね？

ひよこ…同じなのか… 八雲より天廻の方が天野は苦手 そうだな

…

ひよこ：さすがにクラスは違う？

GM：自分らで決めていいよ

ひよこ：おにいさん、その辺どーする？

坂田：接点ないって言ったし違うつて事で

ひよこ：りょーかい

坂田：というか不登校だしどちらにしろ

ひよこ：顔は知らんね　ただ、天野はビビるだろうよ

GM：おkね？

ひよこ：おkです

m@s@s：校内にlevel5がいるってことだけ知ってる感じがな

ひよこ：なるほど

GM：でも、八雲ちゃんもレベル5なんだがなあ…w

m@s@s：八雲っていくつ？

GM：20歳

ひよこ：天廻の登場シーンそろそろ？

GM：いつでもどうじよ

ひよこ：こないね…

m@s@s：読み返してきて八雲に姉様に近づくなと言われてるらしい事に気がついた

GM：今頃かよw

m@s@s：見逃してたwww　あつぶねえ…

ひよこ：…もうここきたら胸ぐら　つかまれそつだな…

天廻「ハア、何でlevel5こつゾロゾロと集まるんだよ…メンドクセエつたらありやしねえ」

ひよこ：もう女子軍の近くに立ってる？

坂田：歩いてきたとこ

朝霧「あら？異常解析さんじゃない」



天野「ひ…ひと…!!」

天廻「よオ、人外確定。また会ったな。」

坂田：あえて呼ぶスタイル

天野「お姉様の…：…お知り合いですか？」

朝霧「遺跡、調べに来たの？」先ほどの会話の時とは声のトーンが違う

天野　ゾクツ!?（お姉様の声色が…：…お姉様じゃない…　人外確定って…：…）

朝霧「逆に天野さん知らないの？同じ学校の人でしょう？」

GM　声のトーンは元に戻してる

天野「ふえ…？」

天野「どこがお会いシマシタカ？　男性Aさん」

天廻「ハツ、なんだよ。怒ってんのか？俺は一度もお前の口から名前を聞いていないんだがな。名前で呼んでほしかったらそれ相應の礼儀を見せやがれっての、年上ならなおさらだ」

朝霧「別に良いのよ名前で呼ばなくても。」

天野「はう！そつえば…　あたしもお姉様の御名前…：聞いてませんデス…!!」

朝霧「お姉様で良いの。ねっ？」

天廻「ハア、まあいい。好きに呼ばせてもらっ」

天野「大事な呼び名なのに…：デスカ…？（言霊的なことデシヨウカ…　お姉様を敬うことに代わりはありませんが、全面的に信用はしかなるかもシレマセンデスネ）」

坂田：それ誰に対しての信用？

ひよこ：お姉様

日をまたぎます

始めた瞬間m@s@sが風呂へ

ひよこ：ていつか天廻よ… テメエ、天野もガン無視よ

天廻「で、本題だがお前は どうしてここに いるんだ？俺は遺跡に行けば いろいろ分かる というから 来てみたが…まさかお前がいるとは思わなかったな、なんだ？ご丁寧に説明でもしてくれんのか？」

朝霧「説明なんて しないわよ。八雲ちゃんが見に行きたいって言うから仕方なく連れて来てあげたのよ。」

朝霧「でも、もう満足したみたいだし帰るけどね。」

天野（お姉様の……彼s…… って雰囲気じゃなさそうデスネ…）

天野「……ええ!? お姉様、帰っちゃうんですか？」

八雲「お姉様！帰りましょう！」

天野「仮面!! なに お姉様連れてこうと してんデスカ…!! 怒」

朝霧「あなたも来るかしら？」

天野「……はふえ…?」ポカーン

天野「お…お姉様? それ…誰に向かって おっしゃってマスデスカ…??」

朝霧「じゃあ、行きましょうか？」

天野「え…あ…は…」

天野「はい！」

八雲「いっくよー！」

GM：八雲ちゃん、朝霧、天野は離脱

ひよこ：天廻…

GM：天廻探索マカシタ

天廻「やれやれ……やっと静かになったか。そついや八雲とあと一人知らない奴がいたな……まあいいか俺には関係ねえし。さてと、遺跡前に着いた事だしさっそく調べてみるか」

坂田：能力発動おk ?

GM：何に？

坂田：遺跡の入り口あたり

GM：目星だろ？

坂田：じゃあそれで

ひよこ風呂に消える

目星 97(85)ファンブル

壁をみようとしたところで、柱に足を引っ掛けて転んでしまった。幸運ロール失敗でダメージ1

坂田：え？なに？誰か襲ってきたりでもすんの？

坂田：フツ、これでも幸運はけっこう高いほう…

幸運ロール74(67)失敗ダメージ1

坂田：へアツ

坂田：前回でもそうだがいらんところでダメージくらうな

GM：倒れた拍子に壁の下の方に何かのマークのようなものが見える

坂田：まあダメージ1くらいなら今日戦闘無ければ一晩で回復するだろうしあんま関係ねえか

GM：まあそうだね ファンブルだし一応ダメージ入れてみた

天廻「イテテ、氣イ抜き過ぎたか？つと、なんだ？このマークは？」

m@s@s：上がってきたら天廻がスツ転んでたwww

ここでm@s@sが帰ってきた模様

GM「マークを確認」

天廻（なんだア？この中央に目ん玉がある気色悪い星マークは…：？）

GM：他には何もないようです

天廻（まあ一応覚えておくか。さてと、中に入るのは危険そうだし情報が足りねえ、まだ止めとくか。白石の霧の件もあるしな。）

天廻（ここで悩んでも仕方ねえし、帰りに買い物でもして帰るか）

坂田：スーパーへ寄って帰宅だな。スーパーで誰かに会うことも無  
いだろうし普通に帰宅でいいか

GM：おk。天廻終了でいいですかね？

GM：軽戸いこか

坂田：白石なにすんの？

m@s@s：何しよー？

GM：まだ二日目は時間があるんですねえ

m@s@s：遺跡に目星しても上のマーク出るだけ？

ひよこ：あがった

ひよこ帰還

GM痛恨のミスで メモをなくす。

GM：目星以外にもする事あるんジャマイカ？

m@s@s：…入ってみる？

ひよこ：… チャレンジャー…

GM：聞き耳とか？

坂田：すでに憑かれてる白石なら問題ない

GM：まあ…目星はしてもいいんじゃないか？天廻が確実に共有するかわからんわけやし

軽戸「…あ、あかんやん ヤ雲さんと一緒にアサ霧さん居たら…」

軽戸「こ、殺される…!!」

ひよこ：必死さw

軽戸「ん〜でも… ハナシ聞いて来るてヤク束してもうたし…」  
軽戸「天廻さんやし別で埋めアわせするって言つたら許してくれそ  
うではある…けど…」

軽戸「どこ行くとか聞いて無いし…」

軽戸「カキ置きしてナンかしてよ…」

m@ss : んで書き置きしてぶらぶらしてたら遺跡に着くって感じ  
で

GM : はい

m@ss : 聞いてない だった…どうでもいいっちゃいいけど =

GM : 遺跡でなにしましょう？

軽戸「……………もう驚かんわ… ナンで来てしまうんか、とかワかれ  
ば良いねんけど…」

m@ss : んじゃ聞き耳

I 聞き耳 42(75) 成功

I 耳を澄ますとブツブツと歌が聞こえてきた遺跡の中から見  
いだ

m@ss : 前に聞いたのと同じ？

GM : 同じですね

軽戸「マエとかわらず… 妙なウタが聞こえてくるばかりや…」

m@ss : 何しよー？ 入ってみるかなあ…

GM : 任せるよ。俺はノープランよ

m@ss : ノープランだとアイデアロールにも期待出来そうに無い  
なあ…

GM : 時間くれれば考えてやるよ。メモさえあればもっとサクサク

プレイだったんだがな…

m@s@s：まあ入ってみよう ダメ元だ

G M：入ると直ぐに階段があり降りると小部屋になっていた

坂田：白石…お前の死…無駄にはしない

ひよこ：地味にひどいよ

m@s@s：まだ死んでない まだ…な

G M：小部屋はえらく暗く全く見えない

軽戸「…見えん」

軽戸「手サグりはさすがにコワいし…」

軽戸「アカリになりそうなもんもナいし…」

m@s@s：目星出来なさそうだし聞き耳

m@s@s：結果変わるとは思ってた無いです

ー聞き耳 50(75) 成功

ーもう一度耳を澄ますと歌に混じって別のものが聞こえてくる

軽戸「ん！ これは…」

G M：何かの言葉の羅列のようだが、上手く聞き取れない

軽戸「んー… こっちの方やな」

m@s@s：聞こえてくる方に行く

G M：行き止まりのようです

m@s@s：暗闇に目慣れてきたりしない？

G M：しないようです

G M：通常の暗闇とは違うようです

軽戸「行けそうにないか…？ 何処から聞こえて来てんねやろ？」

m@s s s : 帰るか…

G M : えーっと帰ってどうする？

m@s s s : …泊まる場所探したいけど 今何時？

G M : 17:40 外には人はいません

軽戸「もうこんな時カン… ハヤク泊まるサキサガさんと…」

軽戸「サイ近、ミナさん力エるんハヤい気するけど…」

軽戸「ナンやる？ ナンかアるんやるか…」

G M : (何かあるんでしょうねえ…w)

m@s s s : まあ分からんのでスルー安定

m@s s s : 各地の知り合い(八雲除く)の家でお泊まり交渉

G M : おk

m@s s s : 断られそうな気もするけど…

G M : レベル3の家に止まらせてもらえるようです

軽戸「アリガトう御座いますー」

G M : 時は過ぎ …:22:55

ひよこ : おお… 進んだな…

G M : 外で何か蠢いているように感じる(軽戸・天廻)

坂田 : 外の様子を見る

m@s s s : 起こさないように気をつけて外を確認

G M : 外は暗く何も見えませんが何かの存在だけ感じます

坂田 : 街灯とかないの？

G M : 有りますが、暗闇を照らす事は出来ないようです

m@s s s : 懐中電灯とかあれば照らしてみる

坂田 : コレを解析するのは危険だな…

G M : 照らしてみたが、光は吸い込まれるように消えてしまいます

坂田：様子を伺う

軽戸（ナンヤ…これは… 能力？としたらどういう…？）

坂田：てか今つて外とか出れんの？

G M：出れません

m @ s s s：軽戸も？

m @ s s s：出れそうだが…

G M：軽戸は出れるよ

m @ s s s：出してみる 遺跡の暗闇と同じっばい

坂田：白石の行動みてから動くか

G M：外に出ると、暗闇に体が包まれそして、気を失いました。

m @ s s s：初めて遺跡入った時の二の舞か…

軽戸「…!?ナン……………」

G M：軽戸はもう二日目は行動出来ません

m @ s s s：dsyn1

坂田：よしSAN値など投げ捨てるもの アナライズだ！

G M：解析しようにも情報が足りず、曖昧な答えしか導き出せませ  
ん

坂田：その答えとは？

m @ s s s：よく解らない

m @ s s s：が答え？

G M：そうだね

G M：…ここは科学が主軸の世界だから、オカルトについては知識な  
いからねえ

坂田：いや、だから曖昧に導き出した答えっていうのは？

G M：関連性のある物を挙げて、軽戸の靄よりもより強力な何かの  
能力だと推測します

坂田：学園都市の人が使うようなものではないってことはわかる？



GM：過去存在してきた能力者の類ではないと思っています

天廻（なんだアレは・・・少なくとも能力者のソレじゃねえ・・・この幽霊でも出ましたってか？・・・笑えねえー。だがアレの雰囲気は白石の霧に似ている・・・となるとやはり遺跡関係の何かか・・・？）

GM：23：10 外は元通り夜の闇に戻ったようだ。

GM：二日目は終了です。お疲れ様でした。

m@s@s：乙

坂田：乙

ひよこ：おつかれさま